

合格体験記(Q&A方式)

M・K

(令和3年度国試合格、れいめい高出身、病態薬物治療学研究室出、病院勤務)

Q. 国試勉強法はどのようにしていたか。(工夫したこと・合格につながったこと等)

A. 5年生の3月頃から自習をするため研究室に通い始め、徐々に慣らすように自習時間を延ばしていき、最終的には研究室が閉まる時間までいました。4月頃からは土日祝日も関係なく毎日研究室に残って自習しており、習慣化させました。ポイントは寝坊しても何時からでもいいから必ず研究室に行くということです。自信を勉強する環境に置くことが重要です。ただ、休む時は思いっきり休み息抜きをして、メリハリのある生活を心がけていました。

勉強の進め方は参考書をいきなり読んでも頭に入らないので、過去問をベースにどんどんこなしていききました。はじめは全く分からないものが多いと思います。その時はすぐに答えを見て解説を読み参考書で調べます。覚えるべき範囲を知ってからその範囲の勉強をやっていくという流れでやりました。過去問は領域別で進めるのも良いですが、個人的には年度別のほうが全ての分野に触れられるので飽きなくて好きでした。領域別は「この分野だけは網羅する」と決めたところを集中してやりこみたいときに使っていました。また、私は薬学ゼミナールの青本を使っていたので、それに付属する青問を解いていました。青問はほぼ過去問で構成されているので、それをこなせば自ずと過去問を学習することになります。飽きたら年度別ということもやっていました。

大学で開催される薬ゼミの講習会はほぼ参加しました。講師によっては合う合わないがあるので取捨選択して参加するのも良いでしょう。講習会でやった内容はできるだけその日のうちに該当する範囲の問題を解くようにしていました。講義中に疑問に思ったことはすぐに質問に行くようにしていました。講師に聞くために講習会までに解決できなかった疑問点をためておくと効率的に講習会を利用できます。知らなかったことや、まとめなどはなるべく青本に書き込み、覚えにくい箇所や何度も間違える内容、ロゴなどは付箋に書き、ノートに貼ってぺらぺらと眺めていました。特に覚えられないことは必ず目につく研究室の机の前に貼りました。暗記は苦手ですが見るだけでなく見た後繰り返し思い出すようにすることで記憶に定着したと思います。

友人とわからない問題を共有し互いに教えあうことも有効です。説明することにより確かな理解に繋がるし、教えてもらったほうは「友達から聞いたとこだ!」と記憶に残りやすいのです。試験や模試前は不安になったり落ち着かなくなったりしがちですが、「ここは出るかも!」という予想を友人として過ごしていました。そうすると記憶に残るだけでなく実際にその中のいくつかは試験に出題されているのでよくやりました。

Q. 就職活動はいつ頃から始め、いつ決まったか。また今の職場に決めた1番の理由

は？

A. 4年生頃から色々調べ始めました。地元の病院に就職したいと考えていたので実家から通えるところに目星をつけて探しました。4年生の時には見学にも行きました。見学すると雰囲気をつかめます。6年生の春には決まりました。一番の決め手は福利厚生がしっかりしていて実家から近く通いやすいことでした。

Q. 卒業試験後、国試勉強を含む6年間の学生生活の勉強に対するモチベーションの保ち方は？

A. 奨学金を借りていたのでそれを返すために少しでも早く卒業する必要がありました。国家試験は同じ熱量で頑張れるのは1回限りだろうと感じていたので、何としても1回で合格したいという思いがありました。

Q. 通常の対面授業とリモート授業の違いについて感じたことは？

A. 対面授業のメリットは疑問点をすぐに講師に聞けることです。リモート授業はすぐに質問がしづらいますが後で繰り返し視聴したり倍速で再生したりできるのがメリットだと思います。

Q. 後輩たちにアドバイスを一言！

A. なによりあきらめないことです。おそらく何度となく、もうやめてしまおうとか、もう無理だとか思うことがあると思います。それでもあきらめずに続けることの繰り返しが合格の近道ではないかと思います。あと、勉強仲間を作ることです。入学当時、大学に「国試は団体戦」と書いた掲示があったのですが、そんなわけではないと思っていました。しかし去年は勉強面でも精神面でも友人たちに非常に助けられました。あの掲示の言葉は本当だと実感しています。特に勉強面では友人から学ぶところがたくさんあり、互いに相談し合いながら勉強していました。同じ目的の友人たちが頑張る姿に日々刺激を受け私も頑張っていました。

Q. ご両親またはほかの保護者に一言！

A. 心配だったでしょうが、それを私には見せずにプレッシャーを与えるわけでもなく過度な心配をするでもなく、ただただ信じて見守ってくれたことに感謝します。何度となくもうダメかもと思ってることがあり、実際に溢したときも「ダメだったら何度でも挑戦すればいい」とあっけらかんと言ってくれた時は本当に心強かった。ずっと肩の荷が下りたような気がして、気持ちを切り替えて頑張ることができました。何かあった時に頼れる存在のありがたさを実感することのできた1年でした。

最後に長かったようであっという間だった6年間支え続けてくれて本当にありがとうございました。